

第2回 丹波市生涯学習基本計画審議会（摘録）

開催日時	令和元年7月31日（火）午後1時30分開会～午後4時00分閉会
開催場所	氷上住民センター
出席者	【委員】 岡田龍樹委員長、萬浪佳隆副委員長、荒木伸雄委員、山内佳子委員、大西誠委員、酒井芳朗委員、角悟委員、廣瀬渡委員、酒井礼子委員、松本佳則委員、松井宣子委員、細見典子委員 【柏原高校】 県立柏原高等学校生徒 4名 【丹波市】 副市長 【丹波市教育委員会】 教育部長、教育部次長、教育部指導主事 【事務局】 まちづくり部長、まちづくり指導員、市民活動課
欠席者	【委員】 足立雅人委員
傍聴者	なし
次 第	1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 会議の公開・非公開について 4. 高校生・まちづくり指導員の出席について 5. 報告事項 (1) 第1回審議会報告について (2) 丹波市生涯学習に関するアンケート調査について (3) 丹波市が進めるコミュニティ・スクールについて 6. 意見交換 ワークショップ「未来ある子どもたちのために私ができること」 7. 第3回審議会の開催日程 8. 閉会
資 料	【資料1】 第1回審議会摘録 【資料2】 第1回審議会岡田委員長講義録 【資料3】 丹波市生涯学習基本計画（後期計画）の目次構成 【資料4】 丹波市生涯学習に関するアンケート調査結果報告書（抜粋） 【資料5】 丹波市が進めるコミュニティ・スクールについて ◆参考資料 ① 兵庫県の社会教育施策の現状と今後の方向について ② 第3期「ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育基本計画）」の推進 ③ 兵庫県社会教育委員会議報告

会議摘録	
発言者	発言の要旨
委員長	1. 開 会 ○開会あいさつ 2. 委員長あいさつ 皆さんこんにちは。今日はいつもと違い明るいうちからの会議ということで、また違った雰囲気で本日の会議が進んでいけばと思います。先程説明がありましたように、前回の会議を受けて今日は教育委員会から「コミュニティ・スクール」、「学校運営協議会」についてお話を聞かせていただきます。その後、子どもと一緒にこれからの丹波市をつくっていくための活動を盛り上げるには我々に何が出来るだろうか、ということで「未来ある子どもたちのために私ができること」というテーマでワークショップを開催させていただきます。机もその様な形で並んでいますので、色々な意見を出していただければと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。 副市長にもグループワークに参加いただけるということなのでよろしくお願いいたします。一言ごあいさつをお願いします。
副市長	副市長鬼頭でございます。大変暑いなか、審議会にご出席いただきまして御礼を申し上げます。前回より、いろいろなご意見をいただいている中で、社会教育と生涯学習の関係とか、あるいは、生涯学習が市長部局にあることの課題が出ていました。これについては、これからも考えていかなければいけない問題だと思っています。また何かの機会に、市長部局が生涯学習を持っていること、あるいは、教育委員会の中に社会教育を持っている社会教育課がない丹波市の問題、あるいは、公民館がなくなり住民センターになっていることの課題とか、そういう具体的な事例をお聞きし、それをどうしていくのかをこれから考えていかなければと思います。また、いろいろな機会でお話いただければ有難いと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。
委員長	3. 会議の公開・非公開の決定について ありがとうございました。それでは議事を進行してまいります、その前に議事の公開・非公開について確認させていただきます。 運営要綱第2条におきまして、会議の公開又は全もしくは一部の非公開は委員長が会議に諮ってこれを定めるとなっている。本日の議事においては、特段個人情報特定されることはないと考えておりますので公開とします。傍聴希望は出ておりますでしょうか。 今のところは「無い」ということ、ありがとうございます。

委員長	4. 高校生・まちづくり指導員の出席について 本日、柏原高校の生徒とまちづくり指導員に出席していただいております。これは丹波市生涯学習基本計画審議会設置条例第6条3項に、議長は、会議において必要と認めるときは、委員以外のものを出席させ意見を聴き、又は必要な書類の提出及び説明を求めることができる。という条項に基づいております。高校生は、市役所へのインターンシップで来られていて、今回のグループワークに是非参加していただきたいということで席に着いてもらっています。今日は、若い方の意見も聴けるのではないかと楽しみにしています。また、まちづくり指導員の方にも、今日はグループワークで意見を活発に聴かせていただけると期待しております。 ご紹介させていただきたいと思います。まちづくり指導員の方から一言ごあいさつをいただけますか。
高校生・まちづくり指導員	(高校生とまちづくり指導員の自己紹介)
委員長	ありがとうございました。遠慮なく意見を言ってください。よろしくお願いします。
委員長	5. 報告事項 事務局に説明を求めます。
事務局	(1) 第1回審議会報告について ○資料1、資料2、資料3に基づき説明 (2) 丹波市生涯学習アンケート調査について ○資料4に基づき説明
委員長	ありがとうございました。何かお気づきの点はありますか。 調査結果は全体をクロス集計してまとめた資料となっています。改めて数字等をご確認ください。続いて丹波市が進める「コミュニティ・スクール」についての説明を求めます。
学校教育課指導主事	(3) 丹波市が進めるコミュニティ・スクールについて ○資料5に基づき説明
委員長	ありがとうございました。全国で文部科学省が「コミュニティ・スクール」の推進を進めています。段々とコミュニティ・スクールを導入していく学校が増えてきています。丹波市も今年度中に全校区で導入ということですから、進んでいると思います。先程、説明がありましたとおり、運営協議会ができた学校を「コミュニティ・スクール」と呼ぶということです。○○

小学校が「コミュニティ・スクール」になりました。ということは、〇〇小学校には「学校運営協議会」が設置されていることになります。「学校運営協議会」は、法律で定められた協議会ですから一定の権限を持っています。その大きな仕事は、学校の教育方針は、指導要領に基づいて校長が教育課程を設定しますが、その教育課程の中身を運営協議会のメンバーが承認するという手続きをとることになります。それぞれの学校で、どのような子どもを育てていくのか、どのような教育活動をしていくのかということ、地域の方と学校が了解をして進めていくことになります。そこには、地域の方の意見も反映できます。地域の方々が、子どもたちをどのように育てたいかという思いも学校に届けて、学校は、意見を受け入れながら協議し、カリキュラムを固め、それに沿って教育を進めて行くことになります。先生は、転勤等で学校を代わっていくことになりますが、地域の方々は、そこに住んでいるので、地域として子どもたちにはこのように育ってほしいという思いを継続的に見ていくことが「コミュニティ・スクール」のねらいです。運営協議会は、校長や先生方と協議しながら方針を決めますが、地域の方々も方針に基づいてお手伝いできるところはボランティアとして手伝っていきましょう。学校がそういった子ども達を育てようとしているのなら、地域としてこんなバックアップが出来ます。という形でバックアップの体制を広げていく。それを「学校地域協働事業」と呼び、その活動に取り組んでくれる方々が、地域の中に増えいくことが重要なポイントとなります。先程、説明がありましたが、そこにはいろいろな団体が加わり、行政の社会教育が学校と連携して地域で子どもたちを育てていくことを目指していきます。

丹波市の「生涯学習基本計画審議会」では、基本計画を見直すにあたり新たに視点として加わったのは、この「コミュニティ・スクール」の推進という部分でした。

丹波市では、生涯学習を推進するのは首長部局。高校生の皆さんには分からないかも知れませんが、教育委員会には、市長をトップにする部局と、教育長をトップにする教育委員会事務局と大きく分けて2つあります。一般行政を司るのは首長（市長）で、市長の元に色々な行政を進めていく。一方で教育については、教育長をトップに教育行政を進めていく。

学校教育、社会教育あるいは地域の中の学習活動を推進するのは、主に教育長をトップとする教育委員部局が推進しますが、生涯学習は、幅広くいろいろな活動が生涯学習に含まれるので首長（市長）の元で進めるのがいいという形で、生涯学習に関することは、首長（市長）の元に置いている市町村はたくさんあります。丹波市もその一つです。

これまで丹波市の「生涯学習推進計画」は、首長部局、市長の部局を中心に広く生涯学習を進めるのにはどうしたらいいのかと進めてきましたが、教育長をトップにする教育委員会事務局が、この中には描き込まれていなかったということがあります。丹波市は「コミュニティ・スクール」を全校区展開していこうという形の中で、「コミュニティ・スクール」は地域の方

委員長	と学校が連携していく活動ですから、広い意味で「生涯学習」となり、「コミュニティ・スクール」、「学校運営協議会」あるいは「学校地域協働事業」というものを「生涯学習基本計画」の中にどのように考えていけばいいのか、子どもを巻き込んだ生涯学習活動というものをこれからは考えていく必要がある、というのが今回の審議会の課題の一つです。 本日は、この後ワークショップを一緒にさせていただきますが、その部分について皆さんから意見をいただきたい。柏原高校から生徒が来てくれているので、「生涯学習って何?」、「丹波市は私たちのためにどんな生涯学習の機会を提供してくれているの?」というような意見をいただきながら、丹波市の中でいろいろな方が参加して、それぞれの役割を持って展開できるような活動はどうして作っていけばいいのかというような意見の出し合いをしていただきたい。 6. 意見交換 会議に出席する者、全委員・事務局職員・まちづくり指導員・柏原高校生が4つのグループに分かれる。 それでは、ワークショップに入っていきますので、それぞれ準備をお願いします。机の上に模造紙が一枚置いてあります。ワークショップでは、「ブレインストーミング」といった形でポストイットに、個人の意見を書いて貼っていく方法がありますが、今日は、模造紙の自分の前の辺りに思いついたことを書き込んでいただくという形で進めたいと思っています。自分の好きな色のペンを使って書いてください。ワークショップのテーマは、「未来ある子どもたちのために私ができること」となっています。 「丹波市生涯学習基本計画」の中に「まなび里をつくろう」とあり、これが丹波市の最終目標になります。「まなび人を育てて、まなび力をつけて、まなび里をつくる」というのが丹波市の生涯学習基本計画です。そこには、「まなび里」とは、「まなび力」を開花させて、活躍する機会にあふれた里である。「まなび力」を生かしながら、地域の課題解決や活性化につながる里となることが描かれています。ただ、「まなび人」がどんどん増えていき、「まなぶ力」が付き、いろいろな活動が地域の中でできるようになったら、それが「まなび里」である。「まなぶ人」が増えて、「まなび力」がついた時には、もう「まなび里」ができているという考え方であったが、今日は、もう一步踏み込んで、「ワークショップのねらい」と資料に書いてありますが、「まなび里」をどう考えるのか。「まなび人」が増えて、「まなび力」が培われた結果として、自然にできあがるのが「まなび里」である。その方向で進めてきたが、もう一步踏み込んで、「まなび力」を発揮して「まなび里」を運営するような人材、組織、仕組みを作って、「まなび里」をさらに増やしていく。そういう機会が「まなび里」のひとつではないのか、その機会がたくさんあったから「まなび里」となっていく。その機会、つまり「まなび里」
-----	---

をどう創造していくのかという視点も必要ではないのか、ということで今日はワークショップしていただきたい。

「まなび里」となる機会を思い浮かべていただいて、具体的に「まなび里」「学ぶ里」とは広くコミュニティで、その中にみんなが学び合える機会は、存在しているのか。どんなことがあれば楽しいのか。それをみなさんの中で洗い出しをしていただきます。あるいは、こんな事があったほうがいいのかという提案をいただきたいと思います。そして、今行われている「まなび里」となる具体的な機会に限界、課題はないだろうか、こんな活動が細々で行われているが、工夫によっては広がって多くの方が交流できる可能性はないだろうかということを提言として、それらを運営していくために必要な「まなび力」とは何かを挙げていただきます。

ワークショップ運営方法の説明

別紙資料参照

〈セッション1〉

- ① 地域の中で、ふれあい・学びあう「機会」はあるか、それはどのようなものか
- ② それらの「機会」に改善すべき課題はあるか
- ③ 「まなび里」として結実する可能性はあるか

テーブル毎に司会、発表者を決めていただき、最終的に模造紙に書き込まれたものを見ながら、発表者に発表をしていただきます。模造紙は、見せるものというよりは、人の話を聞きながら自分の思いついた事をメモする。メモしたものをみなさんに聞いていただく。それに触発された自分の意見を書く。という形で使ってください。気になるキーワードが出れば、同じ意見や関係する意見をつないで、そこから考えられる新たな課題や取り組み方があれば、空欄に書き込んでください。

まずは、丹波市の中に「まなび里」になる契機となる学ぶ機会はどんなものがあるかという洗い出しをしていただきたい。地域の中でふれあい、学び合う機会はあるのか？それはどのようなものか？「コミュニティ・スクール」の話を聞きましたので、できるだけ多様な属性の方々（子ども、高齢者、障がい者等々）やいろんな方が参加できる機会はあるかを考えていただきたい。

それらの機会が改善すべき課題はあるか、このように工夫したら良くなるのかという課題意識、それが広がって一つの小さなコミュニティの中から「まなび里」の“種”が生まれていく、それがつながっていくと、結果として「まなび里」となっていく。その可能性があるようなものって何だろう？というものをまず出していただきたい。これがセッション1です。

丹波市の中に、何かその“種”はないだろうか？みんなが集まって、出会って一緒に活動できるようなものは既にあるだろうか。育てて大きくなっていく“種”はないか？もっと丹波市としてはこんなことをしてはどうか？

指導員	というアイデアを含めて議論をセッション1ではしていただきたい。(約25分予定) 〈セッション2〉 ① 「まなび里」に多様な「まなび人」が参加でき、それぞれが役割を持って活動できるようにするにはどうすればよいか ② そのための「まなび力」＝人材、組織、仕組みは、どんなものが求められるか 人 材：私は何ができるのか 組 織：私が頼り、支えてくれるのはどんな仲間か 仕組み：人材や組織が丹波の里で有機的に機能する仕組みはどんなものか その後セッション2に入ります。その中からたくさん意見が出てくるかも知れませんが、「丹波市にはこんなものがある。こんなものもある・・・。」その中からチームで一つ、“この機会を磨きあげていくためにどうしたらいいか”を考えていくのがセッション2です。 「まなび里」に多様な「まなび人」が参加でき、それぞれが役割を持って活動できるようにするには、どうしたらいいかを考える。そのための「まなび力」、言い換えると、そこには、どのような人材がいたらいいのか、どういう組織があればいいのか、どういう仕組みがあればその機会は、有効に機能していくのか、「まなび里」の“種”は大きくなっていくのかを考える。人材というのは、今日集まっていたみなさんが、私に何ができるのかという視点から、こんな事ができる人がいたらいい、こんな事ができる人がいたらイベントで広がっていく・・・。私は何ができるのかという視点が考えられます。 次は組織です。私一人では何もできない。私を支えてくれる、私が頼れる組織とはどんなものか？行政が持っている組織なのか？あるいは、民間の団体なのか？も含めて支えてくれる組織はあるか。 そして、最後は仕組みです。人材や組織が「たんばの里」で有機的に機能していくための組織はどうしたらいいのか。全体として、「まなび力」を持ち、困った人がいるとそれを支える組織があり、全体につないでいく仕組みがある。というところまで今日できればお話していただきたい。 あまり難しく考えないで、セッション2では具体的に、こんな取り組みが丹波市ではあると、各チームが調整して一つのことについて掘り込んでいただきたい。 まずは、セッション1では、どんな可能性のある機会が、丹波市にはあるのかを洗い出していただき、可能性、課題を話し合いとしていただきたい。 質問はありますか？ ワークショップのテーマの「未来ある子どもたちのために私たちができ
-----	--

	ること」との関係性は？
委員長	多様な人という形でくくっています。丹波市の中のいろいろなイベントの中には、ある属性の人々のための活動があります。それはそれで重要だと思っていますが、今日は、そこに子どもたちも含めて、いろんな方が参加できる機会に絞って話し合いをしていただきたい。あるいは、高齢者のための学習の機会を運営されている方々がおられます。それもまた重要です。しかし、もしかして行き詰っていると、そこに子ども巻き込むと活動自体が良くなっていくのではないかと？そんな視点を持って、丹波の未来を作るのは、丹波の子どもたちですから、丹波の子どもたちを巻き込んだ活動やふれあいの場を創造できるかという可能性を探っていただきたい。 難しいですか？ 例えば、私が丹波市で生涯学習といえど難しくなりますが、こんな寄り合いがあり、こんなところへ行けば皆さんと触れ合える、地域の人と活動と一緒に出来る、何かを目指してスポーツが出来る。学びの会はどんなものがあるのか？子どもの時にこんな会に参加したよ、今どうなっているのか？というところから地域の中で、どんな活動があったのかを思いつくままに洗い出していれば。
指導員	ワークショップの「未来あるこどもたちのために私ができること」がテーマ。今、言われたのは先生が説明されたことと、どこでマッチングしているのか？が分かりにくいことがあるのではないだろうか。
委員長	セッション2に関わりますが、この場に参加している方が中心となって「まなび力」を発揮していただきたい。私だったら何ができるのかという視点から、私にはできないかも知れないが、どんな人材が必要なのかと我が事と考えていただきたい。私一人では限界があるので組織、仕組みまで展開して、私を支えてくれる組織は何だろう？仕組みって何だろう？とセッション2では考えていただきたい。私目線から考えていただくねらいです。
委員	あえて質問します。先生のお話では、セッション1では「未来あるこどもたちのために私ができること」はあまり意識しないでもいいというように感じます。セッション2はワークショップの目的の事柄を意識して話を進めればよいということですね。
委員	模造紙とマジックは具体的にどの様に使うのですか？意見を自ら書き込んでいくとは。
委員長	これから色々な意見を聞いていくので思いついたことを書き込むメモとして使い、ここに完成形を作るものではありません。例えば、思いついた事を書いたものが、他の人も書いていけば同じ思いがあったと、頭の中を共有

委員長	する様な使い方をしてください。(プロジェクター資料の例示で確認) ○セッション1 グループ毎にワークショップ実施 (約 25 分) ○発表 まず 1 班から 【1 班は、自治会内、小学校区、地域等で開催されている教室やイベントを洗い出しその中の構成員や事務局 (世話人) のこと、広報の方法を話し合う】
1 班	僕たちの班では、介護教室や田ステ女俳句ラリーや俳句教室、いきいき百歳体操やラジオ体操が出てきました。他には祭りや運動会、音楽会など大きい行事には、人が集まる機会があることが分かりました。
委員長	ありがとうございました。例えばこれをもう少し工夫して盛り上げていくとすれば検討に値するというものは？
1 班	教室等がもう一度広まったら人が集まると思うので、広報 (チラシ) が課題だと思いました。
委員長	具体的どんな教室の話ですか？
1 班	俳句教室です。
委員長	俳句教室。今、テレビ番組で「プレバト」というがありますが、面白いですね。俳句も本気でやればいろんな世代の方が取り組み面白いのではないかな。 2 班それではお願いします。 【2 班は、各人が学びの場、使用できる施設等を書き出しその場での出会いからの繋がり、今後の展開等の話をする。】
2 班	それぞれの思う参加しえる学びの場、施設はどのようなものがあるかというところで、FM たんば、広報から情報収集して学んでいるとか、隣近所の話から学んでいるとか、いろいろなサークルで学んでいる、図書館で勉強するとか、学生さんが言われたのですが、高齢者の方に見守ってもらったから自分たちは安心して通学できたなどと言われていました。自治会役員になったことで、他の人達といろんなところに参加して、いろいろ学べたという意見がありました。また、いろいろな人とも出会う機会が増えたという意見

	があり、各地域夏祭り等されていますが、そういう集まり等で学び機会があるということです。地域でいろんな年齢層の人が構成員になれば、もっと良いものが出来るのではないかと。お祭りの時に子どもたちに役割を持たせたらいいのではないかと。
委員長	セッション2に向けてどこをさわれそうですか？
2 班	同じ夏祭りでも何か仕掛けが出来れば、学びの方に行けるよねという話です。これからの話です。
委員長	お祭りも一つの学習の機会で、それだけで楽しみながらやられるよりももう一工夫でもっと良くなる可能性がある。 3 班お願いします。 【3 班は、各自治会でのイベントや行事、学校や公共施設でのイベント等を通じての出会い、そこへの参画のきっかけづくりを話し合う】
3 班	私たちの班で出たのは、一つ目はトライやるウィークでのふれあい。二つ目は、私は三田に住んでいますが、毎月第1日曜日にごみ拾いをします。それは全員参加、強制ではなく行ける子、子どもとか地域に住んでいるおばさん、おじいさんといろんな人がその日の朝少しの間ですが、全員でごみ拾いをするという出会いがあります。後は、図書館での読み聞かせや各種イベントで昔遊びとか黒井城の山登り、特産販売、フリーマーケットで子どもやいろんな方が参加できています。俳句のイベントなどもあります。
委員長	班としてはこの辺を突っ込んで改善したり、展開できそうなものはありますか。
3 班	地域のごみ拾いの自主参加というのは機微に感じています。他の地域の方を悪く言うつもりはありませんが、丹波市では義務感でその家から一人、地域の行事に出ていれば良いと義務感的な参加があるので、自主的な参加の出来るイベントなり地域の行事の在り様、その中で自分がどうできるか。逆に誰でもが参加しやすい行事ということだと思います。誰でもという意味の中に「女性と若い人の活躍社会」という事案が含まれているのではないかとという見通しをたてています。
委員長	私は大学に勤めているのですが、学生がたくさん海外留学するのですが、“ブルネイ”という国に留学した学生が大学のキャンパスのゴミを誰も拾わない。海外ではゴミを拾うのは業者さん、だけどうちの学生は袋を持ち友だちを誘ってゴミ拾いをするという新聞に載った。ゴミ拾いは日本人の特徴な

	のですね。いろんな地域で展開をしているので可能性はあるのではないかな。 4班お願いします。 【4班は、誰でも利用できるフリースペースづくり、集いの場づくりを中心に話し合う】
4班	4班のキーワードは「集う場所」というところに行き着いたかなと感じています。夏祭りであったり、文化祭であったり、ラジオ体操は、特にいろんな世代の方が交流する場になっています。そういう人が揃ったり、関わったりする場はそれぞれあるかなといった中で、2つ気になった事例がありました。 まず、「ふれあい食堂」がこの班でもいくつかあり、取り組まれているところがある。集う場所があって、楽しく、負担なく皆さんが自主的にされているからそういう場所が成り立っているのだらうと、それが少しでも欠けてしまうと継続しなくなるというのがもったいないという話になりました。初めて聞いたのですが、新井自治協のふれあいセンターで、自主的に子どもたちが毎日勉強に来ていて、その場所を開放している。その指導を年配の方々が行き、いけないことをしていたら叱り役になる等その中で関わられる場所を作られている。また、子育て世代のお母さんたちがその場所を使ってコミュニケーションをとる場所になっている。柏原は、どちらかというとアパートなど地域とつながりが無いところだが、その場所に行くことで地域と関わりができる。これはなかなか聞いたことなく、私の地域がこれだったら嬉しいな、幸せだなとそんな事例を伺いました。最初に戻るのですが、集う場所の中で楽しく、負担無くみんなが自主的に関わることが一つのキーワードと感じました。
委員長	ありがとうございました。その辺りでこの後、議論出来そうですか？
4班	そうですね。いろんな人が自分から目的を求めて、集まれる場所は、案外ないような気がしました。
委員長	それをどうやって運営できるだろうかを話し合っていくこともある。 たくさん話していただき、それぞれ面白いなと思います。これでいきますか？それぞれの班・・・これなんかは具体的で応用例もでてくるのではないかと思います。 俳句でもこれが出来るのなら、このやり方をすればここからどんどんできるのではないかと応用が利く。 夏祭り、これまで年々とやって来たものに新機軸を入れてもっとみんなが参加できる。 ごみ拾い、さっきも言いましたが、日本のサッカーのファンがゴミを詰め

	て帰るというのが海外でも評判のなりそういうゴミ拾いを通じて地域に貢献することを皆でやる。 フリースペース、皆が気楽に集まってそこで出会いがあり話しができる。会議が出来る場をどのように運営していけばいいのかを考える。など、それぞれ面白いのではないかと思います。これでセッション2に入ってもよろしいか？ セッション2ではそれぞれのテーマを、どのように運営していくとより効果的で持続的にできるのか、そのためにどんな人材があればいいのか、どういう組織が関わればいいのか、それをバックアップする仕組みはどんなものがいいのかというようなアイデアを出してください。 ○セッション2 グループ毎にワークショップ実施（約25分） ○発表
委員長	どの様な話ができましたか？発表できますか？ 例えば、俳句教室や村のイベント、ゴミ拾い、これらを丹波の里づくりとして機能させていく時の課題について、具体的に出た意見を報告いただきたい。
3班	女性と若い方に活躍社会を作っていかなければならないというテーマで、簡単に言えば、自治協議会、自治振興会の活用という話を中心となりました。現在の自治会は、越えなければならぬ、崩さなければならぬハードルがあります。女性活躍社会、若い人の活躍社会に自治会がなるのかというと、壁があるのではという雰囲気の話に終始しました。それで、自治協議会の活用という、自治協議会の方が活躍しやすいということ、自然発生的な活動も大切というなかで、自然発生的な活動を起こしそうな方の人材支援収集がこれからの自治協議会には大切である。あるいは情報提供のパイオニア人材を自治会、市が確保し、ここにこういう人がいる、こんな活動を起こしたがっている、こんな活動なら参加してくれる、そんな人的情報を提供してくれる媒体を、自治協議会がいかに確保していくかがこれからのキーになる。というのが大体の結論です。
委員長	これは、非常に地域に密着した活動で、自分たちの暮らしているところのゴミを拾ってきれいに、川をきれいに、溝をきれいにする活動、それを担っていくのは自治協議会、その自治協議会がどんな動きをするのか、していけばいいのかという点で課題がある。地域密着型のイベントでいろんな方が参加し、女性も子どもも参加して触れ合うイベントを作っていく、それだけの組織がすでにあって、それをどう機能させていくかが課題である。

2 班	村のイベントはつながりの場、交流の場になるので大事にしていけないといけない。課題は、役員の負担が大きい、参加者・年齢層が限られている。内容に変化が無くマンネリ化している、お祭りの企画は、男性がメインでしているということが課題としてあがった。どうすればいいかというところで「う～ん」となったのですが、全体的に人口が減ってきていることもあり、自治会という単位よりも小学校区で考えていくというところで、若い世代や子どもたちにも企画に入ってもらいたいのではないかと、自治会として細かい単位、隣保等でアイデアを出し、企画を考えていけばどうかというところで、企画や運営方法を学ぶことが今後の力になっていくのではないかと。
委員長	祭りという話から、村で伝統的に行われているイベントで、どんな苦労があるかという話が出されていました。実はどこの地域も困っていることです。伝統ある村祭りの担い手がいなくなっている。一方で盛り上がっているお祭りもある。学校と地域との「協働活動」でよく事例にあるのが、中学生ぐらいにお祭りの担い手になってもらう。お祭りは、伝統的なしきたりがあるので、過去に経験のあるお年寄りが仕切ることがありますが、そういった人たちもしんどくなっている。若い人に若い人の発想で入ってもらうと盛り上がりやすくなる。新しい発想で組み替えていく。地域の伝統のイベントに新しい血を入れていくのが課題である。おじいさん・おばあさんの時代は、終わりましたではなく、指導してもらいながら若い人が新しい発想を盛り込んでいく仕組みができれば良いのではないかと。 ありがとうございました。次、お願いします。
1 班	僕たちの班では、俳句教室を例にして考えました。人材については、教える人がいる、組織も教室がたくさん存在し、2つは大丈夫ですが、それを知る仕組みがないという課題がわかりました。それで考えたのが、丹波市内において、「資格」や「級」などを設置して向上心を刺激し取り組みたくなる、丹波市内だけでも認められる、自己実現があればいいと考えました。
委員長	ありがとうございました。 丹波は俳句の組織がしっかりしているんですね。 なぜ俳句は組織化されているのか？そこに関わっている人たちは、どんな人がいて、どういった活動をしているのか、それを見てみると、俳句以外のものは真似できるのか、できないのか考えていく必要があると思います。指導できる人がいて、組織もあって、丹波は俳句の町ですというのを丹波の市民が認知しなければならない。それをどう広報するかです。学びの成果をどう共有していくのかが共通の課題です。イベントなど地域で年々と続いて他に知られなくてもいいというのではなく、それを自慢して共有されるようになって行く工夫も必要である。テレビの「プレバト」という番組で名人・〇〇級とやっていて、丹波でも作るとか、最近の SNS で発信するなど新

4 班	しい展開も必要なのかなと思います。 教室、学級、講座は、昔から社会教育で運営してそれが自主学習グループになり展開していくという形で支援してきたのですが、その成果の一つとして俳句教室があるのなら、モデルとしてもっと教室が展開できる、その支援をどうしていくのが今後考えていく課題である。 ありがとうございました。では、4 班 誰もが立ち寄ることが出来るフリースペースづくりということで話を進めていましたが、その中で先ほど2つ例を挙げた「ふれあい食堂」と新井自治協の「ふれあいセンター」での取り組みを掘り下げていきました。2つの共通点は、関わる人が主体的に取り組むには、自分たちで実行委員会を立ち上げて、同じ気持ちを持った人が集まり、その思いに賛同して行動できる人を集めることが重要である。自治協議会の中でとか自治振興会の中でこんな取り組みをしましょうというよりも自分たちでやりましょうという思いが重要と思いました。 もう少し説明させていただくと、春日部で「ふれあい食堂」をされていましたが、1年間の中で最初の取組みはなくなったが、地域に派生して春日部の地域の人たちだけで行うようになった。 それは、私が活動の中で感じるのですが、何か自分や地域で取組む活動があり、それをある程度継続していくとそこから派生することが多い。それがまた派生して違う取組みが生まれることを体感する。おそらく春日部の「ふれあい食堂」も元々始めの取組みとは、変化して違う地域で行われている。また、そこでされていた方が違う地域でされるといった循環というか、派生していくことが生まれていく。それは思いをもってボランティアという言い方が適切か分かりませんが、本当に人のためにすることが広がっていくことがあると感じましたので、思いを持った人が集まることが重要なのかと感じました。 新井自治協でされている「ふれあいセンター」の取組みでは、「地域の子どもたちを育てたい」この考え方が根づいていることが凄いと思いました。が、ふれあいセンターに常勤されている方の思いが強く、スペースを開放されている。これができるところとできないところがある。なぜできないのかと議論していくなかで、スペースを開放することにより、いろんな責任問題が出てくる。子どもたちが怪我をした場合誰が責任を取るのか、交通の便が悪ければ送迎も含め、どれだけスペースを整備するのか等々、そもそもフリースペースを作るとなると、ある程度の助け合い、支え合いを意識して責任を押しつけないという考え方が大事である。お互い様だからこそ何か問題が起きても相手の責任にはせずに「いいよね」と思える考え方が広がっていくことが重要である。このフリースペースづくりが丹波市に広がっていくには、みんなが自分ごとと捉え、そのスペースに関わる以上は相手に責任を押しつけないことが大事と思う。 このフリースペースづくりに関連して、セッション1の時に出てきてい
-----	--

	て紹介できていなかったのですが、柏原高校の生徒さんが、登下校中に見ず知らずの人と挨拶をする。指導員さんも柏原高校の高校生から挨拶をされる。全く持って面識のない人とコミュニケーションがとれるということは、生涯学習、これからコミュニティ・スクールも含めて、誰とでもコミュニケーションが取れることは重要なのかなと思います。フリースペースづくりとは懸け離れますが、いろいろな人とコミュニケーションを積極的にとれる人が丹波市に増えていくと課題解決や新しいものが生まれやすくなると感じました。
委員長	ありがとうございました。 「フリースペース」先ほど井戸端会議とも言い方をしましたが、スペースをどう準備して運営していくか公民館の課題です。学校と地域の連携事業で「放課後子ども教室」というものがありますが、地域の方が学校の中で子どもたちを預かって遊んだり勉強したりする。それが定着してくると保護者は、託児所に子どもを預けているような感覚になる。地域の方がみんなで手伝って行っているのに、子どもを迎えに来た親は、お礼も言わずに帰って行く。地域の方は、子どもたちのために行っているのに預けて当然のような形になっている。そんな時になぜ、このようなスペースを作って活動しているのかのコンセプトを、利用する人みんなに広めて共有していくことが重要になってくる。いわゆるただ乗りみたいに便利なので、ここに子どもを預けていきます。ではなく、自分たちがきちんと関わっていくというようなコンセプトを明確にして協力していく。コンセプトを了解してくれるのであれば誰でも、他の地域からでも来てもらえる。そんな雰囲気が広がっていく。ただ場所の問題は難しいので、行政も関わって場所の問題をどう設定するのか仕組みづくりが社会教育の課題なのかも知れない。
委員長	今日は、具体的に近いものを捉えてそれを発展させて、実のあるものにしていくためには何が課題なのかという具体型発想をグループワークとして設定させていただきました。今後この審議会では、そこを盛り込んでいかないといけないですが、少し抽象化してどういう仕組みづくりがいるのか、学びを循環させるにはどういう人材が必要なのか、どんな組織づくりが必要なのか、というところで今日の話を心に留めていただき、後期の計画に盛り込めるような、具体的なアイデアから抽象的な施策へと転換できればと思っています。具体的にどうしたらいいのか、逆に何故うまくいかないのかという発想を交えながら仕組みを考えていく必要があると思います。
委員長	今日は短い時間でしたが、話し合いしていただき有意義であったと思います。高校生の方も物怖じせず発言され、柏原高校の学生さんは凄いなと思っていますので、これに懲りずに顔を出していただき大人と渡り合ってほしいと思います。大人は若い人たちの意見を求めていますからどんどん発言して頑張ってください。それでは、高校生4人に拍手をお願いします。

事務局	地域でもこのような機会があればぜひ参加してください。ありがとうございました。 このように顔を突き合わせ、丹波のことを振り返って、地元のことを見ながらみんなで考えてみると良いところはいっぱいみつける。組織を活性化するにはどうしたらいいのか、良い事例を真似するためにはどうしたらいいのかを今後考えていくには、参加のしやすさと広報（周知）は必要です。自分たちの行っている活動を人に知ってもらうことはとても重要です。SNSなど情報発信がしやすくなっている時代ですからうまくアピールする。人の目に触れることにより関心が広がる。地域でまだできない時は、広報の仕組みは次の世代に任せる、代替わりするとか、あるいは市でフェイスブックを作ろうか、インスタをつくろうかとか、情報をアップしていく仕組みは何かないだろうかという発想も出てくるのではないかと。 長時間ありがとうございました。本日予定していた次第はここまでです。次回第3回審議会になりますが、事務局から説明をお願いします。 7. 第3回審議会の開催日程 令和元年10月3日（木） 午後1時30分 氷上住民センター 8. 閉会 ○閉会あいさつ
副委員長	ご苦勞様でした。 今日は高校生を4人交えまた、まちづくり指導員の方も一緒に問題提議と参画していただきありがとうございました。課題解決に向けてグループワークを実施し、各班それぞれの方法があつて、これからの学びのヒントとなることと思います。丹波市の将来が明るくなりますように願いながら本日の第2回生涯学習基本計画審議会を閉じさせていただきたいと思ひます。本日はご苦勞様でした。